# Sport in Life Award

第6回

Sport in Life（生活の中にスポーツを）の実現を目指し、
スポーツ人口拡大への貢献に資する優れた取組を募集します！

応募期間

**令和8年10月13日（火）～12月4日（金）**

詳しくは「Sport in Lifeアワード」
特設ページをご覧ください。

スポーツインライフアワード　検索

https://sportinlife.go.jp/award/

スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

# 第6回「Sport in Lifeアワード」

## Sport in Life（生活の中にスポーツを）の実現を目指し、スポーツ人口の拡大に資する優れた取組を募集します！

### 「Sport in Lifeアワード」とは

スポーツ庁では、一人でも多くの方がスポーツに親しむ社会の実現のため、「Sport in Lifeプロジェクト」として、スポーツ人口拡大への貢献に資する優れた取組を募集し、表彰する「Sport in Lifeアワード」に取り組んでいます。
本アワードで受賞された取組を起点に、広く社会へ発信することで、より多くの国民のスポーツ参加の機会を創出し、Sport in Life（生活の中にスポーツを）の実現を目指します。
本アワードの趣旨にご賛同いただける皆様のご応募をお待ちしております。

## 実施概要

| | |
|---|---|
| 主　催 | スポーツ庁（Sport in Life プロジェクト） |
| 実施期間 | ◆応募受付　令和8年10月13日（火）～ 12月4日（金）<br>◆表彰式　　令和9年3月3日（水）予定　会場：都内 |
| 応募対象 | 地方公共団体・関連団体、スポーツ関連団体（スポーツに関する活動を主に実施している団体／競技団体など）、経済団体、学校・教育団体、医療福祉団体、民間企業など、アワードの趣旨に賛同いただいている方はどなたでも応募可能です。<br>※令和7年4月1日以降で実施された活動を含む取組を対象とします。<br>※同一団体が複数応募することが可能です。件数に制限はありません。<br>※過去にスポーツ庁からのモデル事業を受託して実施した取組については、受託期間終了後に、工夫・改善等を行うなど新規性がある取組のみを審査の対象とするのでご注意ください。 |
| 応募要件 | 上記応募対象に加え、Sport in Lifeコンソーシアムへ加盟いただくことが必須です。<br>加盟申請がお済みでない方は申請をお願い致します。 |
| 募集部門 | □企業部門　□団体部門（大学等を含む）　□自治体部門　□シュープロ部門 ※シュープロ部門は他の部門と選択可 |
| 取組ターゲット | □若者・子供　□働く世代・子育て世代　□女性　□高齢者　□障害者 ※複数選択可 |
| 応 募 先 | Sport in Life 運営事務局 |
| 応募方法 | Webフォームよりご応募ください。<br>詳細はSport in Life公式ホームページ（https://sportinlife.go.jp/award/）参照。 |
| スケジュール | 応募期間：令和8年10月13日（火）～ 12月4日（金）<br>審査：令和8年12月上旬～令和9年1月<br>受賞候補者通知：令和9年2月上旬頃<br>表彰式：令和9年3月3日（水）予定 |

## 表彰

**大賞（最優秀賞）**…… 1件
**優秀賞（企業部門）**…… 3～5件程度　**優秀賞（団体部門）**…… 3件程度　**優秀賞（自治体部門）**…… 3件程度
**シュープロ賞**…… 1件程度　**奨励賞**

※今年度新たに「シュープロ賞」を設けました。「シュープロ賞」への応募には、応募時点でシュープロへ賛同いただいていることが必要です。
賛同に関する詳細はシュープロWebページ（https://sportinlife.go.jp/shoes-project/）をご参照ください。
※奨励賞については、大賞、優秀賞およびシュープロ賞受賞団体以外の中から選考し、授与します。

## 受賞後の特典

**特典1**　受賞取組内容を事例集にして「Sport in Life」ウェブサイト※に掲載！

https://sportinlife.go.jp/

**特典2**　受賞ロゴマークが使用可能！

Sport in Life Award

**特典3**　各種メディアの他、Sport in Life 関係のWEB媒体・イベント等でも皆さまを紹介！

# 募集要項

## 募集部門

| | |
|---|---|
| 企業部門 | 団体部門（大学等を含む） |
| 自治体部門 | シュープロ部門 |

## 5つの評価視点

| 評価視点 | 具体的なポイント | （参考）第3期スポーツ基本計画の関連する内容 |
|---|---|---|
| **Sport in Lifeの理念** | （1）Sport in Lifeの理念を理解しているか？ | スポーツが生涯を通じて人々の生活の一部となることで、スポーツを通じた「楽しさ」や「喜び」の拡大、共生社会の実現など、一人一人の人生や社会が豊かになるという理念 |
| **スポーツ実施者の増加** | （2）スポーツを行うきっかけづくりにつながっているか？ | 成人の週1回以上のスポーツ実施率が70％になることを目指す |
| **スポーツ習慣化の推進** | （3）スポーツを行う習慣化につながっているか？ | 1回30分以上の軽く汗をかく運動を週２回以上実施し、1年以上継続している運動習慣者の割合の増加を目指す |
| **スポーツへの親しみやすさ** | （4）スポーツへの親しみやすさにつながっているか？ | 競技に勝つことだけではなく「楽しさ」や「喜び」もスポーツの大切な要素であるという認識の拡大を図る |
| **スポーツの裾野の広がりやすさ** | （5）企業・団体・自治体のモデルとして他の地域や属性などへの広がりが期待できるか？ | — |

## 募集する取組ターゲット（例）

| | | |
|---|---|---|
| 1 | **若者・子供向けアクション** | 大学生がキャンパスでスポーツをする機会の確保、学生時代から始めて生涯にわたり継続できる運動習慣のきっかけづくりにつながった。空き地や生活道路など、若者・子供が身近な場所で自由に運動遊びをする環境を整備した。親子で一緒にスポーツを楽しむ取組が広がった。 |
| 2 | **働く世代・子育て世代向けアクション** | 仕事や通勤をしながら、ちょっとした工夫でできる運動を推進した。<br>子供をきっかけに、親世代のスポーツ実施が促進された。 |
| 3 | **女性向けアクション** | 家事や日常の動作の中で、いつの間にか運動をしている仕掛けをつくった。<br>女性特有の悩みや美容、ファッションなどを入口にスポーツ実施につなげた。 |
| 4 | **高齢者向けアクション** | 無理のない範囲で自分にあったスポーツを実施できる環境を整備した。<br>地域でのスポーツ活動を通じて、世代を問わないスポーツ交流へつながった。 |
| 5 | **障害者向けアクション** | 障害があっても気軽に地域でスポーツを楽しめる環境を整備した。<br>障害のある人とない人が一緒に楽しめるスポーツを実施した。<br>スポーツを通じて「地域デビュー」することが促進された。 |

## 取組イメージ ※あくまで参考例ですので評価視点に沿った自由な取組でご応募ください。

### 取組例 1
**若者・子供向けアクション**

学生が自身の健康をマネジメントできるように、授業以外の時間帯に、キャンパス内でヨガやピラティス等の体験教室を開催した。

週2，3回の頻度で、3か月間継続して開催したところ、参加学生から肩こり等が改善したという声が出てきた。

参加学生の口コミが広がり、体験教室への参加者数が増加し、学生たちも健康を意識するようになった。

結果、ヨガやピラティスだけでなく、学生たちが考案した健康運動プログラムも展開されるようになり、スポーツの輪が広がった。

### 取組例 2
**働く世代向けアクション**

平日に運動を実施することが困難な従業員に対し、勤務時間の中でできるヨガ教室（現地・オンライン）を導入。

平日の昼休みに、約20～30分間のヨガを週2回の頻度で3ヵ月継続して実施。

導入前後に、身体機能のセルフチェックを実施することにより、実施前後の身体機能の現状に気づくことができ、運動意欲の向上に繋がった。

身体機能や、労働生産性が向上したという声も上がった。

### 取組例 3
**高齢者向けアクション**

高齢者のスポーツを通した健康づくりを目標に運動プログラムを展開。

自治体と大学が連携し「スポーツきっかけづくりプログラム」を考案。地域の高齢者が、無理なく、負担なく、自分のペースでスポーツができる環境を創出。

単発で終わらないよう、地域住民がお互い支えあうことで、自発的に集まって運動習慣につながる環境を作り出した。

結果、高齢者の継続的なスポーツ実施者が前年と比べ3倍へと増加した。

### 取組例 4
**障害者向けアクション**

障害のある人とない人が地域で一緒にスポーツを実施できる環境を整備した。

特別支援学級の生徒と通常学級の生徒が一緒に参加できるボッチャ教室を、地域のスポーツ施設で実施。

毎週土日の同じ時間に開催することで、障害のある子供を含む参加者の定期的な運動実施につながった。

さらに、障害のある子供とない子供の日常的なコミュニケーションを通じて、親同士のコミュニケーションも生まれることとなり、スポーツをきっかけとした地域交流の活性化につながった。

### 取組例 5
**シュープロ向けアクション**

「スポーツのきっかけづくり」をテーマに、勤務時間内にウォーキングイベントを実施。

ウォーキングアプリを導入し、月1回、無理なく継続できる参加環境を整備した。

日本一周のバーチャル旅を体験できる仕組みを取り入れることで、参加意欲の広報と継続的な実践を促進した。

その結果、これまでスポーツに親しみの少なかった従業員の参加も広がり、運動習慣の定着や健康増進に寄与した。

※「シュープロ」とは、「シューズ」＋「プロジェクト」から着想を得た新たな造語であり、運動・スポーツの習慣化・実施率の向上といった社会課題に対する、靴を起点としたプロジェクトです。
シュープロWebページ：https://sportinlife.go.jp/shoes-project/

## 応募方法

Sport in Life公式ホームページに記載のWebフォームからご応募ください。

**応募期間：令和8年10月13日（火）～ 12月4日（金）**

スポーツインライフアワード　検索

公式ホームページはこちら
https://sportinlife.go.jp/award/

**お問い合わせ先：Sport in Life運営事務局　Mail：info@sil100.com**（稼働時間：10:00~18:00　※土日祝・年末年始を除く）

※必ず応募締め切り令和8年12月4日（金）までにお送りください。　※応募申込書の返却はいたしません。また事務局にて応募申込書の差替え等は行いません。
※映像・音楽資料は審査の対象外となりますのでご注意ください。